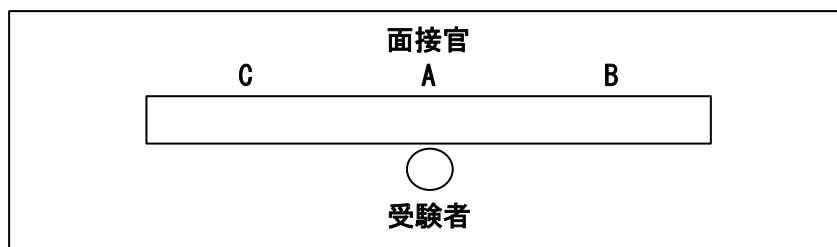


<2022 年度合格者の人事院面接再現>



時間：約 15 分〈受験者：面接官 1：3〉

場所：さいたま新都心

受験区分：政治・国際区分

受験者：女性（防衛省：内定）

評価：A

論述試験が 5 月 22 日にあり，人物試験は 5 月 25 日に指定されました。集合時間は 13 時 15 分で 20 分前くらいに会場に到着しました。待機室に入ると面接をする順番に前から座ることになりました。私は 1 番最初だったため前の席に座り，説明や必要書類の提出を済ませた後，すぐに面接室に案内されました。面接室の前で面接官が入ってくるのを待っていたところ，「よお！」と声をかけられ振り返ると説明会で何度もお会いしたことのあたる採用担当の方でした。緊張と驚きとが混ざった気持ちのまま面接がスタートしました。

面接室に入るとコロナ対策のため面接中のみドアを閉めるように指示されました。荷物は入ってすぐのところにある机に置きました。3 人の面接官が横並びですわっており男性が 2 人，女性が 1 人でした。面接が始まると出身大学や職業など個人が特定されることは言わないようにしてくださいと注意されました。面接時間は 10 分から 15 分程度でした。

再現

A：それでは受験番号と第一次試験地とお名前をお願いします。

私：はい。受験番号〇〇，〇〇，〇〇です。よろしくおねがいします。

A：では，上から順番に聞いていきたいと思います。高校時代に平和活動をしていたとのことですが，なぜこれを始めようと思ったのですか。

私：はい，理由は 2 つあります。1 つ目は小学生の頃に読んだ「ヒロシマのピカ」という絵本がきっかけです。そこには原爆投下直後の悲惨な様子がかかれており子ども心に純粋にこわいと感じました。2 つ目はこれも小学生の頃ですがテレビで見た原爆記念式典がきっかけです。式典の厳かな様子から「これが日本にとって大事なことなんだ」と気がつきました。そして高校生になり平和大使募集のポスターを学校で見かけ，私も何かしてみたいと思い活動をはじめました。

A：具体的にどのような活動をされていたのですか

私：はい、主に街頭で核兵器廃絶に関する署名活動をしていました。そしてその集まった署名をスイスの国連欧州本部に届け、英語でスピーチしました。

A：スピーチでは何を話したのですか。

私：はい、私は東日本大震災を経験し被災地でボランティアをしたことから子どもたちが笑顔で暮らせることこそが平和だと感じるようになりました。しかし原爆は一瞬でそのような平和な生活を奪うことから、もう二度と核兵器が使われてはならないということ、さらに私たちは被爆者の生の声を直接聞くことのできる最後の世代であるからこそ次の世代に継承していくことが大事だということをスピーチしました。

A：英語でスピーチしたと言いましたが英語は得意ですか。

私：帰国子女ではないので英語がペラペラというわけではないのですが～笑、英語の勉強は好きです。スピーチも暗唱すればいいので本番は大丈夫でした。

B：平和大使はどのように決まるのですか、またその活動は部活動なのですか、課外活動なのですか。

私：はい、これは部活動ではなく課外活動です。自分で見つけて応募しました。選考では小論文と面接があり、私は自分の出身県の代表として選ばれました。

C：では次の事項について聞きたいと思います。ダンスサークルの活動ではチームの潤滑油として働いたと書かれていますがこれは具体的にどういうことですか。

私：はい、チームの中に二人リーダーがいたのですが、一人はもっと厳しく練習を進めたい、もう一人は練習をもっと楽しめるように進めたいと考えていたため意見が対立してしまいチームでの練習の雰囲気が悪くなってしまいました。そこで私が二人から相談を持ち掛けられ、二人の話を聞き仲介役になることでチームの雰囲気を改善することができました。

C：ではそのような経験を国家総合職として働くにあたってどのように生かせると思いますか。

私：実際に働く際は様々な人とチームになって働くことになると思います。もしその中でもめ事があったとしても私は双方の話を聞き相談に乗ることで事態を収拾してチームを良い方向に持っていけると 생각합니다。

A：それでは次に、参議院事務所でインターンをしていたとのことですが、どうして始めようと思ったのですか。

私：はい、私は国家公務員になる前に国家公務員とは別の視点である政治家という立場から政治を学んでみたいと思ったからです。

A：政党名とかは言わなくていいので(笑)、どのように初めて、どれくらいの期間、どんな活動をしていたのですか。

私：インターネットで政党が独自に募集しているインターンシップを見つけ夏休みの間だけやっていました。仕事内容は主に名刺の整理やポスターを丸めるといった事務仕事で、たまに国会を見学させてもらっていました。

A：国家総合職として働くことと議員さんと一緒に働くことも多くなると思いますが、この経験をどのように生かせそうですか。

私：国会議員は地元の支援や家族の支援が欠かせないことを知りました。国家公務員になり議員さんに関わる機会ができたなら議員さんの周りの人を巻き込んで一緒に仕事を進めていこうと思います。

A：働いてみてどうでしたか。

私：働く前はどんなこわい政治家の人が来るかとドキドキしていましたが、実際に働いてみるとそんなことはなく優しい方で私の話も聞いてくださいました。

A：え、そしたら政治家になりたいとは思わなかったの？

私：え～いや～それは思わなかったですね（苦笑い）国家公務員になりたいという気持ちは変わらなかったですね。

A：それでは最後に質問のある方はいますか？（他の面接官を見ながら）

B：では私から最後に一問だけ質問させてもらいます。東日本大震災を経験したとのことですがそれによってあなたの人生観など何か変わったことがあれば教えてください。

私：はい、私は震災当時は内陸に住んでいたため家が壊れるまでの被害はなかったのですが、復興し始めた頃に被災地の小学校に訪問しました。町の建物の復興はまだだったものの、子どもたちが予想以上に元気に暮らしていることに驚きました。その様子から私も何か貢献できることがあればいいなという漠然とした気持ちが浮かびました。

A：それでは面接を終わります。ありがとうございました。

私：ありがとうございました。

◎面接の感想

いつもお世話になっている採用担当の方が面接官でしたがその省庁特有の質問などはされずオーソドックスな質問が来ました。面接全体として、なぜその行動をとったのか、その活動から何を得たのか、その得たものを国家総合職として働くにあたってどう生かせるかといった基本的な質問が中心だと感じました。変な質問が来るかもしれないと身構えて、そちらの対策ばかりするのではなく、当たり前のことを当たり前にすらすらと答えられることの方が重要だと思います。